

城間古墓群

この遺跡は、牧港補給地区(キャンプキンザー)内の開発に先立ち、昭和62(1987)年に発掘調査を行いました。調査したA・B地区で計14基の墓がみつかっています。

墓は、石灰岩小丘の斜面や岩陰を利用して造られています。墓室(墓の内部)の造り方に違いがみられ、岩陰を石で囲うタイプと斜面や岩陰を掘り込むタイプがありました。また、掘り込むタイプの墓には小型で外観にあまり手を加えないものと、大型で手の込んだ意匠が施される亀甲墓がありました。

城間古墓群の被葬者と年代については、蔵骨器等の出土品や銘書から字城間の人々の墓域として17世紀以降に墓が造られ、戦前まで使用されていたと考えられます。

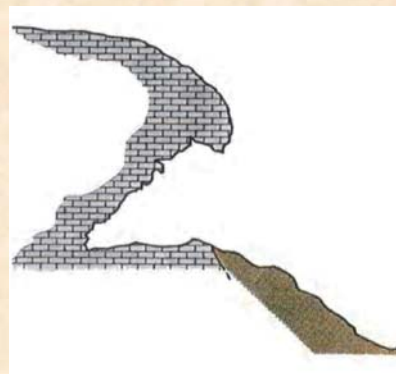


▲ 城間古墓群の位置と周辺の遺跡

城間古墓群 A 地区 9号墓

この墓は、当初は岩陰を利用した近世頃の墓と考えられていましたが、貝塚時代からグスク時代の土器のほか、動物の骨や貝、石(ヒスイ)を加工したアクセサリーが数多く見つかりました。最も古い土器は、爪形文土器と呼ばれる約7000年前のもので、ヒスイ(翡翠)は新潟県糸魚川地域が原産地と考えられる石で、沖縄県内での発見例も少なく、当時の交易等を考えるうえで貴重な資料です。

この場所は、貝塚時代には住居あるいは墓に利用され、近世には再び墓に利用されています。時代によって、この岩陰の利用方法は異なりますが、遺跡の出土品から当時の人々の暮らしぶりをうかがうことができます。



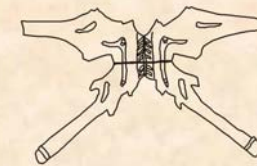
▲ 9号墓の断面図



▲ 爪形文土器
表面に爪や指でつけた模様があります。



▲ 貝製品と骨製品



▲ 彫刻骨製品の復元図
蝶形骨製品とも呼ばれています。ジュゴンの骨製で、飾りものやお祈りなどに使われたと考えられます。



▲ ヒスイ製品
ペンダントと考えられます。



▲ 石斧